アメリカ西海岸の都市（ロサンゼルス・サンディエゴ・パームスプリングス・ラスベガス）を8日間の日程で研修を行い、断片的ではあったがある程度の成果を残すことが出来たと考えている。

都市の印象としては序文でも述べたとおり成熟し整然とした街並みの中に様々な文化や要素が入り込み「多様性の中、成長を続けていく都市」というものをダイレクトに感じ取ることができた。例えばロサンゼルスにおいてレディオブエンジェルス大聖堂とディズニーコンサートホールを例に取ると分かりやすい。同時期の竣工ながら素材・様式・あり方がまったく異なるものである。成熟した都市の中では新しい要素はアクセントとしてそのものの機能や都市に対する社会的役割をそのままかたちにしていく。そのようなところがアメリカ的な都市形成の作法のように感じる。

風土的なことというと砂漠に都市が存在するパームスプリングスはテラスにはミストを放出する機械があり数多くの庇が散策路のポイントやたまりに存在しており街路を特徴づけている。日本においては雨が多い為、商店街の歩道にかけられているアーケードのようなものなのだろう。

パームスプリングス郊外の砂漠地帯にある巨大な風力発電の風車群も日本でも最近になり見られるようになったが環境に対するインフラと風景が織り成すテクノスケープが壮大で美しささえ感じさせられた。

ラスベガスは空港からホテルに着くまでは巨大な4000～5000の客室を抱えるメガホテルがストリップというメインストリートに建ち並び、街路にはバカンスで訪れた世界各国の人々が行き交い24時間眠らない街を感じさせる。またテーマも世界各国の主要都市の名前がついており一つの通りで世界一周カジノの旅ができるというものである。それがひとたび車で郊外まで走ると景色は一転し砂漠となる。砂漠の中の人造都市という明確な境界がそこにはある。島国の都市の中にすんでいる我々にとっては、ニュータウンこそ経験はしているものの、悪条件の中の開発というアメリカの特異性に可能性と驚きを感じさせられた。

また今回の研修旅行において現地の設計事務所Z-pang Designの吉岡氏を訪問させていただき、アメリカの建築事情や仕事の方法、トニー氏の作品についての説明を受けることができ大変刺激となり有意義であった。

これからの設計活動に研修中の数々の経験や成果を生かし、異国の建築、設計事務所との交流を日本での仕事と結びつけながら思考に幅や深さを与えることができれば、本当の成果のある研修旅行になると考え設計活動をつづけていくつもりである。